

森林レンジャーあきる野新聞

Shinrin
RANGER

あきる野

Vol.79 2017年1月号

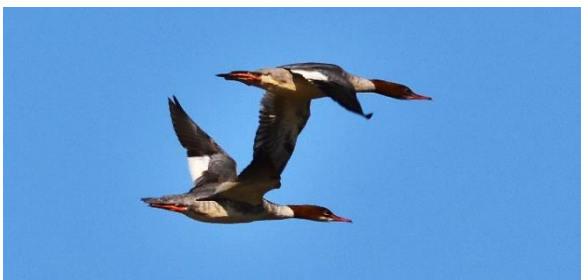
発行：森林レンジャーあきる野



(上)オナガガモ。雄の長い尾羽やオシャレな羽模様が特徴的ですが、あきる野ではレアです。
(下)キンクロハジロ。雄の方が色のコントラストが強く、冬に飛来するガン・カモ類の代表的な種です。全国的には増加傾向にある様ですが、あきる野では数がかなり少ない種です。



(上)ヨシガモ。東京では数が少なく、絶滅危惧種に指定されています。あきる野でも滅多に会えませんが、アシ原ではチャンスがあります。
(下)カワアイサ。尖がった嘴や頭部の色が特徴的で、多摩川で稀に見ることができます。



「カモ フラッシュ」 越冬のため南下する多くのガン・カモ類が関東地方まで現れ、あきる野にも飛来することになります。

冬期、あきる野に飛来するガン・カモ類の調査は今期で2年目となり、市で繁殖するカルガモやオシドリを除く11種類のガン・カモ類を確認しています。しかし、多くの種類の個体数が除々に減少している可能性があり、継続してガン・カモ類の数の変動や生息状況を調べる必要があると思います。

冬の身近な存在である、あきる野の様々なカモを紹介します。

マガモ。一般的に、カルガモと共によく見られる種で、様々な環境で観察できます。雄の頭部の羽色は非常に美しく、雌は地味でカルガモに似ています。



ハンビロガモ。都会の公園にも飛来しますが、広い池などの溜まり水を好むため、あきる野ではほとんど見られません。嘴がとても大きなカモで、識別は容易です。

(上)オカヨシガモ。少し地味で目立たない種ですが、東京では数が少なく、河川敷などに広がるアシ原に飛来します。

(下)コガモ。カルガモやマガモと並び、あきる野の冬に最も生息するカモで、昨年のピーク時は1日当たり238羽も見られました。名前の通り、小形で可愛い種です。



冬の晴れた日、あきる野の河川敷で散歩しながら双眼鏡で探鳥をするのがおすすめです。

[パブロ]



池チーム
池を掘り水路作り



材料チーム
倒木を伐り出す

森チーム
植物の移植と森の整備



今日知ったこと・ものとのつながりや発見したこと

水がもたないときものかい
いきていそ
いうこと

活動報告書より抜粋

昔、谷津田として利用されていた場所は、第3期から水生生物が利用するための水場作りと多様な動物が利用するための森の整備を続けてきました。短い期間とはいえ、環境も変化し多様な野生生物が利用していることがわかっています。

そして今年も、第6期コレンジャーのビオトープ整備が始まりました！現場に着くと、まずは池を掘る場所に生息するフユイチゴやセキショウを移植しました。その後は倒木の伐り出し、池掘り、倒木を

利用した水路や土留め作り、森を整備し伐った木を柵にしたり、後輩が作る名札のために運び出すなどそれぞれチームに分かれて作業を行いました。

池も森もまだまだやることは沢山ありますが、今回はこれでおしまい。道具を担いで山を下りました。その後は活動報告書をまとめ発表し、そうじをして平成28年の活動を締めくくりました。

1月は、自然の状況に合わせての活動となります。楽しみです♪
(加瀬澤)